系圖

事の見えたるを思ふに、古はかゝる文の多かりと聞ゆ、○註略　纂記といふ記の狀も、大かた然る狀の記にぞ有けむ、大系圖の卷首に、新編纂圖云々とある纂圖てふ號も、御紀に纂記とあるに倣へるならむかし、此を以ても書紀の今本ごもに、墓記とあるは誤なること、炳焉(イチジル)し、

〔段注說文解字十三糸〕纂釋詁曰、纂繼也、此謂纂卽續之假借也、近人用爲撰集之偁、

〔下學集下器財〕系圖(ケイヅ)圖與啚同字也

〔書言字考節用集七器財〕系圖(ケイヅ)字彙、系者連也、繼也、緒也、

〔說文解字十二系〕系、繫也、从糸、丿聲、凡系之屬皆从系、胡計切

〔倭訓栞中編七計〕けいづ　系圖と書り、書法あり、朱を引あり、墨を引あり、又寸法ありて、男子を專に記し、女子は无が如にして、名をだに書ぬものなりといへり、

〔續日本紀八元正〕養老四年五月癸酉、先是一品舍人親王、奉勅修日本紀、至是功成奏上、紀三十卷、系圖一卷、

〔弘仁私記序〕淸足姬天皇○元正　負扆之時、淨御原天皇(天武)之孫、日下太子之子也、世號飯高天皇、扆戶牖之間也、負斧扆者、言以其所處名之、今案、天子御座之後也、親王○舍人　及安麻呂等、更撰此日本書紀三十卷、幷帝王系圖一卷、今見在圖書寮及民間也　養老四年五月廿一日、淨足姬天皇年號也　功夫甫就、獻○獻字原無、據釋日本紀補、於有司、今圖書寮是也

〔秦山集雜著甲乙錄五〕續日本紀曰、奉勅修日本紀、至是功成奏上、紀三十卷、系圖一卷、今有紀無系圖、蓋收釋日本紀者是也、當附刻本書者也、

〔釋日本紀四〕帝皇系圖○系圖略

〔本朝書籍目錄〕氏族

帝王系圖　一卷　舍人親王撰

〔類聚符宣抄六〕被右大臣宣偁、以刑部大輔滋野朝臣安成、少外記善淵愛成等、預造纂天皇系圖大臣